

令和7年度 第3回「白山市ミライ会議」会議概要

日 時:令和7年6月7日(土) 10:00～

場 所:一ノ宮コミュニティセンター

参加者:8名



◆ 一ノ宮地区ではスムーズに地域コミュニティ組織へ移行できましたが、今後は組織主体でプランを立てていかなければと考えています

(参加者)

白山市には28地区があります。地域コミュニティ組織を立ち上げるときに、いつも皆さんに説明していたのですが、一ノ宮は非常にまとまりのいい地区です。都会でも田舎でもなく、お互いがお互いを知ることができていて、自助共助や、町内会を中心としたいろんな行事などが既にきちんとしています。従って移行するにあたっては、例えば新町民と旧町民との融合であるとか、そういった問題は発生しませんでした。公民館自体も、いろんな地域の行事の中にまじって、すでに様々なことをやっていたので、移行は比較的スムーズにいきました。

組織の実態としては、公民館がコミュニティセンターに変わったというだけだと思います。公民館の仕事にプラス、社会教育活動以外のジャンルが増えたという捉え方が一ノ宮地区としてしっかりくるのかなと思います。今後は、新しい人材を育てていきながら、次のリーダー的な存在の方々を発掘していかなければいけないと思っています。

現在は事務局の仕事を地域コミュニティセンターの職員の面々で行っていますが、これを今後一般の方々にやってもらえるかという私は無理だと思います。今まではコミュニティセンター長あるいは事務職が従来の流れに沿って行事のプランを作って、総会で諮って、実行するという形でした。1年経ったので、これからは事務局がプランを作るのではなく、役員の中でいろんなことを相談しながら、年間のプランを立てていくような形にシフトしていかなければいけないと思っています。

課題は今後生涯学習以外の分野にも取り組まなければならない中で、この地区特有のいろんな問題をどう解決していくかということです。全てを一度に取り組むことは難しいので、今年も防災一

本で行こうかなと思います。

◆ 地域コミュニティ組織の長とコミュニティセンター長とを分けることの意味は。センター長の勤務条件が厳しすぎるのではないのでしょうか

(参加者)

現在、地域コミュニティ組織の会長は運営組織の会長で、コミュニティセンター長が事務局長というような形で組織がつくられています。

今までずっと公民館組織でやってきたので、実態として、分けることの必要性について考えています。実際それぞれの就労条件なども設定されていますが、なかなか次の人材を見つけるのは難しく、皆さん組織以外の活動があって、フルタイムで勤務するわけにもいきません。センター長は、勤務中の半日以外にも準備などしなくてはならない活動も多々あり、かなり大変なのかなと思います。そんな意味では、もう少しシンプルにしていた方がよいのではと思います。二つの役職をイコールにしている地区もあると思いますし、分けた意味とその実際問題組織として運営するための形がちょっと乖離しているのではないかなと思っているところです。

(参加者)

一ノ宮地区の地域コミュニティ組織は、センター長がリーダーシップをとってずっとやられてきて、絶大な信頼があって成り立っています。根本的な問題として、それに代わる人が見つからないということがあります。

市が提示するセンター長の条件はとても厳しいのではないのでしょうか。その結果、参加できる人がおらず、同じようなメンバーがずっと運営を行っています。今はできているけれども、このメンバー以外で代わって誰かがやってくれるかと聞くと、なかなか皆さん手を挙げてくれません。

結果、無理やり任期などを延長して運営しているのが現状のため、これでスムーズに動いていると思われるそれは違います。市の方で厳しい条件を設定して、こういう人じゃないとダメ、こういう働き方してくださいと条件が厳しくなると、参加できる人の選択肢がないという状態です。そういった点を行政には考慮していただきたいなと考えています。

(参加者)

条件の話で特に影響があったのは、勤務が常勤となったことです。非常勤ならば、都合が悪ければ休むこともできますが、現在は常勤なので、1日3時間半きちんと必ずいなければならない。そういう条件となると、年金受給年齢は先に延びていて、年金だけじゃ生活できないから仕事をしたいと考えている元気な高齢者は参加することができなくなります。時間の融通であったり、週何時間というような形であったり、少し何か工夫できないかなと感じています。少なくとも今の条件でい

くと、仕事を抱えている人、すなわち若い人達はまずできないでしょう。

（協働推進課長）

市の会計年度任用職員であるコミュニティセンター長は週 17 時間 30 分の短時間勤務という形で、日々の勤務時間を変動させるなど柔軟な働き方ができることになっています。ご意見いただいたように、別途お仕事をされている方には難しいかもしれませんが、時間の融通を利かせるという部分については、またご相談いただければと思います。

（市長）

組織の事務局長やセンター長の勤務形態のことなどは現在様々な場所で意見が出ていると思います。今度組織のあり方について、さらに話す機会を作っていきたいと思いますし、今日のように意見を出していただければと思います。

◆ 防災対応は町内会ごとに実施しており、地域コミュニティ組織の役割は啓発活動だと考えています

（市長）

組織でのプランでいうと、防災組織はどのように運営されていますか。

（参加者）

防災組織として地域コミュニティ組織の中で何を運営しているかといえば明確にはありません。それぞれの町内会としては、自警団などの防災組織がありますけれども、それらが地域コミュニティ組織でまとまって何かをするといった取り組みはしていません。その地区ごとのやり方がありますから、無理にみんなでやるとなるとなかなか難しいと思います。

（参加者）

お尋ねは、一ノ宮地区全体で何かことが起こった時に、お互いの連携をしながらどう対処できるのか、そういう組織があるのかということだと思いますが、そういったものは今のところできていません。

ただ、訓練については、地域コミュニティ組織の主催でいろんなことをやっています。これは一ノ宮地区として取り組んでいます。土のうづくりや消火器・AED の使い方などが主な内容です。地区

をまとめた防災組織っていうのは今のところないですが、そこまで必要だろうかという気もします。

（市長）

例えば令和 4 年の洪水が発生したときの対応は町内会ごとの対応でしたか。避難所の運営はどのようにしていましたか？

（参加者）

町内会ごとに対応していました。

一次避難場所は細かく場所があるので町内会ごとに行いました。また、二次避難施設についても町内会によって、一ノ宮コミュニティセンターと白山青年の家になっています。令和4年の大雨の際は、ここは自主避難所になりましたが誰も来ませんでした。

（市長）

地区によって、地域コミュニティ組織で自主防災組織を作って訓練を重ねていらっしゃる地区もありますが、一ノ宮地区のように各町内会がしっかりされている場合もあるということですね。町会長さんがご苦労されているかもしれませんね。

（参加者）

一ノ宮地区は各町内会が隣接しておらず、地理的に離れています。自分の町を支えながら、わざわざ他の町内と連携を取るっていうのは非現実的で難しいと思います。

（参加者）

地域コミュニティ組織としては、発電機を実際に動かしてみるとか、簡易ベッドを作ってみて、使用方法について学んでみるとか、そういった啓発活動が中心となるのかなと思います。比較的、大きな災害が今までなかった地区なので、皆さんの危機意識はそんなに高くはありません。3 年前の水害で氾濫や落石があってはじめて危機意識ができたようにも思います。

◆ 人口減少と高齢化で、防災面でも心配です

(参加者)

人口減少はこの地区にもあります。住宅地でもない中で、やはり人口をどうやって増やしていくか、それによってまた次の世代が生まれてくるわけですから。現に今高齢化していますので、防災面でも、若い人は日中ほとんどが一ノ宮地区以外に働きに出ていて、平日だと高齢者しかいません。そういったときにどの程度の対応ができるかが重要です。鳥越でも法面崩壊しましたがけれども、ああいうのが起こる可能性がこの地域でもあります。

前回の災害のように小さな川がちょっと氾濫した程度ならいいですが、大きく崩れたときに、この地域コミュニティ組織での連絡網でどこまで伝わるのか、市の方でも、過疎化した地域に対する、連絡網や情報の収集の仕方とか、そういったものを重要視していただきたいと思います。細かい情報の伝達がないと、高齢者だけが残ってしまって、どうすればいいのかっていう問題が出てくると思います。

◆ 市地区支部職員は実際に稼働することを考えて配置していただきたいです

(市長)

能登半島地震のときに、避難された人がいっぱいいらっちゃって、避難所の開設がうまくいかなかった問題があります。市役所には地区支部職員がいますが、一ノ宮の担当職員が顔見せをしていますね。

(参加者)

昨年度は来られたけれど今年度はまだです。

地区支部職員の選出に関しては、できればもう少し近くの方がなれないのかと思うことはあります。駆けつけて避難所を開けますって言うけれども、いざというときに、遠隔地の方がここへ来るよりもはるかに我々が来た方が早いと思います。その辺の人選を行政の方として、もう少し実態に即したものにしてほしいです。失礼な言い方をすると、割り振りをしないとイケないから割り振ったというようなレベルにしか思えません。実際に稼働することを考えて設定して欲しいです。

(参加者)

地区支部の担当者が2人と聞いています。前回の地震があったのは正月です。みんなが家にいましたし、お年寄りはずぐ助けられる状況でした。これが平日だったらどうなるかを考えなければならぬと思います。平日の昼間で誰もいないとき、例えば私の町内会にも防災組織はありますが、担当者がいないときに起こったときには何もできない可能性が高いと思います。担当者がどうい

場合でも現地にいるわけでないということはある程度意識しておかないと、みんながいるときにという前提でやると成り立たない、実際動かないと私は思います。皆がいなくて、最悪を想定して考える必要があると思います。

(市長)

一ノ宮地区の地区支部職員は4人となっています。

地区支部職員の選出にあたっては、地区在住または出身者を充てることにしていますが、課長級以上の管理職や土木課、上下水道課など、選出から除外する職員も多くいるため、すべての地区において地区在住者とするのは難しい状況です。そのような中でも、最大限配慮して選出しています。

また、該当の地区支部職員のみでの対応が難しい事態となった場合には、臨機応変に他地区の地区支部職員を応援班として出動させることとしています。

この前の地震の際にはJR北陸線が運行していて、美川の湊地区でサンダーバードが止まりました。地区の皆さんが誘導して地区の避難所に入れてくれましたが、その時、自主防災組織の皆さんが動いてくれました。自主防災組織として年間何回かそういう取り組みをやっていた地区でもあり、対応ができたようです。ただ、本当に混乱したときは、難しいこともあります。地区支部職員や地区の避難所の運営のことなど、確かに市としてもしっかり考えないといけないと思っています。

先日、県が見直しを行っていた地震被害想定が公表されました。今回の被害想定では、平日だったり夜中だったりとなかなか状況は想定し、最大最悪を見て一番大きい数字を出しています。以前の5、6倍ほどの被害想定をしなければならないという結論が出たので、市としても見直しをしなければならないと考えていますし、今ほどいただいた視点も必要だと思っています。

輪島市の西保地区の方が地震の際に避難に来たときには、公民館長さんが中心となって動いていました。皆さんかなり疲弊していましたが、公民館長さんと私とでどういう対応をするかなどの相談をしたことでうまく運営できました。そういう意味では、地域コミュニティ組織の皆様の役割は大変重要だなと感じています。

特に自主防災の話について、災害はいつ起きるかわかりませんので、いろいろ想定はすすめています。今回白山市も新しい防災センターを作っていますが、地域の状況の把握などもできるようにしていきたいと思っています。

やはりその地域ごとの皆さんのボランティアとか、土のうづくりなどに皆さんで取り組んでいただけるのは非常にありがたいことです。特に鶴来地域は全体的に土のうをちゃんと保管してありまして、前回の災害のときも鶴来朝日町をはじめ、何ヶ所かで土のうが大活躍していました。日頃から備えはしっかりとしている地区だなということ、それは地区の皆さんの助け合いもあるのだろこうと思いますので、ぜひ今後もご協力いただければ嬉しく思います。

◆ 高齢者のみの世帯をどう助けていくかが心配、他地区の参考事例があれば知りたいです

(参加者)

公民館での生涯学習、社会教育活動、それに加えて地域コミュニティ組織では防災関係などがまず大事という話が出ました。それと同じくらい考えなければならないのは、高齢者、特に増えてきている独居老人や高齢者 2 人の世帯について、今後、地域コミュニティ組織でどう取り扱っていいのかということです。どの地区も抱える問題なので、もし他地区で対応事例があって、こんなことをやっている、などを知ることができれば広報していきたいと常々思っています。

(市長)

一ノ宮地区で敬老会などがありますか。また、民生委員の方とかそういう方たちの活動については町会長さんの方で連携していますか。

(参加者)

鶴来地域5地区合同での敬老会をクレインで実施しています。それとは別に氏子が多い白山比咩神社が主催となって敬老祭などを行っています。

民生委員は町内会にそれぞれいますが、一ノ宮地区として連携して活動をしています。地域コミュニティ組織の中にも何人か民生委員がいます。

◆ 舟岡山城についてふるさと学習の機会を設け、環境整備をしてはいかがでしょうか

(参加者)

今年の秋に白山市で全国山城のサミットが開催されることになり、鳥越城が非常にスポットライトをあびています。

一ノ宮地区も、八幡町に舟岡山城という立派な城があったそうです。その舟岡山城について、誰がどのような形で、築城したのか、またその後どうだったのか。金沢城、鳥越城との関わりがどうだったのかなど、ふるさと学習の一環として、ぜひ何かそういったつながりについての説明などのお話をお聞きたいなと思っています。

舟岡山城の石垣については、金沢城に匹敵する立派な石垣だそうです。けれども、現地は草がぼうぼうでどれが石垣でどこが立派なのか全然わかりません。ぜひ行政の指導のもと、草刈りボランティア等を作っていただいて、地元だけでなく鶴来地域全体の住民の方にも参加してもらい、整備をして、立派な石垣だなということを感じ取れるふるさと学習の 1 つになればと思っています。

また、国・県指定の文化財の指定などに結びつけられれば、地元としても、機運が高まるかと思いますので、そういった観点で何か行政としてぜひご検討をお願いできないかなということでもあります。

(市長)

議会からもご質問を受けています。舟岡山城だけでなく今回山城サミットがあることで、文化財に関しての話も出てきていると思うので、それはまた様々整備していきたいと思っています。一ノ宮地区は歴史のある地区ですので、大事にしていきたいと思っておりますし、今後も皆さんの意見を参考にさせていただきたいと思っています。

また、整備やふるさと学習の場といたしましては、地域コミュニティ組織や町内会、地域住民による草刈りボランティアの組織化や、学校や団体と協力・連携した形の講座などで実施していかれることを提案したいと思います。地区が一体となった活動と、その活動に取り組む大人の姿を見ることにより、子どもたちが地域の歴史や自然、文化に触れ、ふるさとへの誇りを育む機会となるのではないのでしょうか。

◆ 組織の活動は顔見知りになるために重要で、楽しいうえに福祉や防災面にも役立つのでどんどん参加してほしいです

(参加者)

先日雨で中止になった地区運動会ですが、町内の方が顔を合わせるいい機会がなくなってしまう、近所の人と顔見知りになることの重要性を考える機会となりました。独居になってしまった家があるとか、近所の人顔を覚えるとか、緊急時に助けるための様々な情報を知ることができます。昔から私はそれが大事だと考えていましたが、たとえば運動会の時に町内会ごとのハチマキの色を利用して災害時の対応に結び付けるなど、地域の生活につなげて防災を考えられるような会議があったらいいのではと、そんなことを考えたりします。

私も何年間かここでお手伝いさせていただいていますが、楽しいから他の方にもどんどん出てきて欲しいと思っています。世代関係なく分け合って楽しみたいのと、関わって欲しいというのがあるので、人数が少ない地区だからこそ考えていかなければならない問題かなって考えています。

(参加者)

地区の運動会には中学生が手伝いをしています。年々生徒数が減りまして、当初は2年生だけ頼んでいましたが、今は人数が足りないので1年生にもお願いしています。運動するだけでなく情報交換の場にもなっています。町内会を越えて話ができる機会はあったらいいと思います。

(市長)

鶴来地域全体で、子ども達も部活を返上して来てくれるし、先生方も見に行っているのを知っています。地域で子どもを育てていただき、素晴らしいなと思います。私も、社会体育大会など、日頃会わない人でもそうした行事で情報交換できる空間は必要かなと思います。

◆ まずは経験することで喜びや満足感が得られ、役員などへの責任感も生まれていくのではないかと思います

(市長)

地区ごとにそれぞれ課題がありますが、特に空き家の対策ですとか、人口が減っていくこと、そして、なかなか役職をする方がいなくなっているというのは多くの地域で聞きます。町内会長はくじ引きで順番に回ってくるというところもあります。大変な業務ですし、地域の自主的なことをやろうとするとなかなか大変だと思います。

私も仕事しながら、町内会長を2年間していましたが、職場の休憩時間で用事を済ませたり、町内の住民へ頼みごとをしたり、除雪のことなどがあったり、大変な仕事でした。そういったことも、この先継いでやっていく人がいないと、なかなかその地域のコミュニティに住み続けていくということは厳しくなるかもしれないと思います。一ノ宮地区は本当に皆さんが仲良くしっかりとやってらっしゃいますが、役員などのなり手は少ないですか。

(参加者)

やってもらえればできる人材はもちろんいると思いますし、ある程度役職に就くことによって責任感も出ると思います。地域コミュニティ組織のいろんな役員もやってもらうことによって、喜びとか、人に尽くすことの満足感を得られて、それぞれ責任感を持ってくれるんじゃないかなと私は思っています。ただ、やるということ自体に最初のハードルがあって、面倒くさいっていう方もいらっしゃると思います。だからこそいろんな人にまずは経験してもらった方がいいなと感じます。同じ人がずっとやるということはやっぱり問題ですし、頼りすぎになりますから、いなくなったときに崩壊するかもしれない危険があります。

◆ 地区で暮らす未来を具体的に想像し、課題を共有して、自分たちで今後の活動を考えていけたらと思っています

(参加者)

地区の係をするのが好きで、楽しくやっていますが、じゃあ次、誰かほかの人っていうと、誰に頼

んでいいかわからない状況で、公民館の時代から長く係をやらせていただいています。

公民館から、地域コミュニティ組織の役員になって何か変わったかって思うと、このセンターで開催される行事に参加して、手伝って、地区の人と関わるっていう受け身の立場であることには何も変わらないなあって今感じています。

今ほど、自分たちで動いていくっていうことを考える機会をいただきました。地区に住み続けることを想像すると、今は自分たちが動けるから、楽しく地区の人たちとの交流の中で暮らしています。けれども、自分たちが動けなくなって、さらに高齢の家族をどうするかとか自分たちも地区の作業に参加できるかとか、雪かきどうするんだとかっていう将来のイメージをすることから、問題を具体的に感じるようになりました。

自分たちで動いていくきっかけとして、全ての世代で、5年10年20年後の自分たちが住み続けるために、楽しく住むための課題をみんなが具体的に想像して、共有していくことが必要で、そうすることで、こうしたい、こういう活動をしていこうという流れができるのではないかと、この会議に参加しながら感じました。

◆ 若い世代だけに期待するのではなく、今ここにいる人で現状と問題を共有しながら役割を担っていきたいです

(参加者)

少子高齢化についてこの地域コミュニティ組織に参加する中でも感じていましたが、いよいよ、若い世代だけに期待をしていくのは難しくなっていると感じます。

そうすると、先ほども出ましたが、今いる世代の人全員、40代50代60代も含めて、同じ危機意識を共有しながら、地域でできる役割を担っていく段階に来ているのかなと思います。

今までのように若い人でやらしてもらわなくてはというのではなく、今いる人で、この社会の状況、地域の状況で生活が続けていけるように、考えていかないといけない時期に来ているというふうに思っています。地域共生社会とかそういったところもあると思いますし、みんなで、知恵を出し合っていけたらなと思います。

(市長)

公民館という組織から地域コミュニティ組織になって、負担が増えたという意見もある一方で、今までやってきたことをさらに地区として、活性化とかそういうことにつなげていきたいところや、今までと大きく変えていないところなど様々な地区があります。

先ほどの、事務局と組織との兼ね合いについて混乱をきたしているっていう話は幾つも出ています。コミュニティセンター長と地域コミュニティ組織の長を両方兼ねている地区もいくつかあります。そのあたりもセンター長さんと集まって、意見を集約する機会を設けていきたいと思いますし、ぜひ

そういうところのでも意見を出してもらいたいと思います。当然町会連合会の方からも町会長さんたちのご意見もあると思うのですり合わせていきたいです。

地区の皆さんが先ほどからいろいろやるのが楽しいというお話がございましたが、地区での仕事等に、それぞれの方が無理なくできるような形がとれれば一番と思います。お忙しいと思いますが、その辺を考えて地域コミュニティ組織っていうのを地区の本当の大事な組織として運営していただければと思います。

今日は様々お話を聞かせていただきました。これからもいろんな面でお話や意見をいただければと思いますし、住みよい地域を作っていけるように市としても努力していきたいと思います。どうもありがとうございました。